

# 自己実現への道

## 第105回 - 第8章 「信念さえあれば必ず道は開ける」(その9)

### ★ この言葉、この行為によって人は死の苦しみからも救われる

牧師ロバート・シュラーの言葉・・・

一粒の種・・・しかし、一本の巨木も一粒の種から生まれたものである。

はなやかなファンファーレの奏楽に送られるでもなく、ひそやかに心をよぎっていく小さな考えは、とかく見逃されやすい。人生の中のちょっとした思考、小さな行為、ありふれた仕事などの中には隠れた可能性が秘められていることがある。彼はその日、二人の友人に電話をかけた。一人は入院していた。彼はその友人を励まし、元気を出すようにと祈った。彼の祈りが終わると、友人は彼に感謝したが、その声は感動で途切れがちであった。それはほんの思いつきでかけた電話で、わずか一分間の対話にすぎなかった。



もうひとつの電話は弁護士の友人にかけたものであった。友人は仕事上の難題で苦慮しているところであった。たとえどんなことがあっても、友人が高潔な人格者であることを彼は信じて疑わない、彼は友人を尊敬している、と励ました。「ぼくは、君を尊敬しているよ」という言葉を繰り返して、彼を元気づけた。

それは、ささいな行為にすぎなかった。

一本の電話、積極的な支持―苦難の中にいる人に対して与えられるこのような励ましの言葉が、生死を分けるきっかけとなることもありうるのだ。思いやりのある、さりげない行為は、一見たいたいことはないように見えても、落胆から希望への心の転換に役立つことがある。

そうした行為を積みあげることによって、ついには山をも動かす可能性を引き出すことがある。

ちょっとした気くばりが人を動かす。電話をかける、手紙を書く、病院に見舞いに行く。むずかしいことをする必要はない。ただ、前向きで明るい言葉をかけてあげればよい。励ましを必要としている人々の心の支えとなってあげよう。

周囲の人々に励ましを与えることができるということは、この上もない天の恵みである。愛や親切心がこもった小さな行いで、毎日を爽やかに送るように努めようではないか。



牧師は毎年 2500 名の学生に（一年間）講義をしている。毎回授業中に希望を与える話をしたり、書いたりする。それを受容しない学生もいるが、多くの学生は激励されたと感謝してくれる。

それぞれの人が、自分の周りの人々に希望を与えるよ、心がけようではないか。

そうすれば世の中はそれだけ明るくなっていくのだ。

<MIKO>

☞ 参考文献：Tough Minded Faith For Tender Hearted People by Robert H Schuller より